

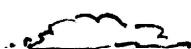
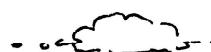
ATAC

Augmentative Talent & Acceptable Community

CONFERENCE 2016



Program



目次

ATAC カンファレンスとは？	1
参加についてのご案内	3
セミナー・イベントについてのご案内	4
ATAC講師による相談会についてのご案内	5
プログラム・要旨	
12月09日（金） [Academic Day]	6
12月10日（土） [Gathering Day]	8
12月11日（日） [Practical Day]	18
企業・団体製品展示	12
ポスター発表	16

Augmentative Talent & Acceptable Community Conference

ATAC カンファレンス 2016 京都

～電子情報支援技術（e-AT）とコミュニケーション支援技術（AAC）に関するカンファレンス～

[日時] 2016年12月09日（金）～12月11日（日）

12月09日（金）	9:30～16:40（受付開始9:00）	Academic Day
12月10日（土）	9:20～16:30（受付開始9:00）	Gathering Day
	17:00～18:30	イブニングセッション
12月11日（日）	9:00～16:00（受付開始8:30）	Practical Day

[場所] 国立京都国際会館 〒606-0001 京都市左京区宝ヶ池

[主催] 株式会社 atacLab



学習・生活・就労支援サービス

ATAC カンファレンス事務局

株式会社 atacLab / エイタックラボ

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町 16-28 グラスシティ渋谷 6F

Tel : 03-4360-5078 / Fax : 03-5309-2088

e-mail : seminar@atac-lab.com URL : <http://atac-lab.com>

ATAC カンファレンスとは？

ATAC カンファレンスは「テクノロジー」と「コミュニケーション」をキーワードに、社会の中で困難さを抱える人たちを支援する技術と考え方を多くの人と共有するために 1996 年から毎年開催されています。教育や福祉の現場ですぐに役立つ技術や考え方を専門家が分かりやすくお話しします。

増え続ける選択肢に反し、生きにくさが増す時代です。加速し変化する社会に合わせるために力を高める努力が求められますが、人の努力には限界があります。今こそテクノロジーのチカラ、人のチカラ、社会のチカラを組み合わせて生きて行くことを学ぶ必要があります。ATAC カンファレンスはそれを支える会です。

1996 年にスタートして以来、ATAC カンファレンスは支援技術 (AT: Assistive Technology) とコミュニケーション技術 (AC : Augmentative Communication) をキーワードに、様々な技術を伝達することで障害のある人の生活を変えるべきカンファレンスを実施してきました。その当時、この新しい考え方を巻き起こそうと奮起してきた始まりは、人の「学ぶ・働く・暮らす」事に本来興味があったからこそです。それに付随する技術である AT や AAC を伝達し、この 20 年間で様々な技術の知識は広がりました。しかし、技術を前面に出すと多くの人はその知識の習得に満足してしまいます。まだ、その技術を活用して幸せに学び働き暮らす生き方の創造・社会の意識の変革・制度の整備のレベルまで達していません。この次のステップに進むことこそ、これから私たちに必要なチカラだと考えます。

そして、これらの ATAC で提供してきた技術や思想は、生き辛さを増す現代社会で全ての人が活用出来るはずです。障害のある人だけでなく、これまで支援に関わってきた人、社会で何かしら悩みを抱える人、組織で人を束ねる人までをも含め、全ての人の生き方をトータルに考える時期であるとも言えます。時を同じくして iPS 細胞やロボット等の我々をエンハンスメント（能力増強）する技術の発展が躍進を遂げています。エンハンスメント（能力増強）を我々はどうとらえるべきか、またそれを前提として学び・働き・暮らすための学校や会社はどのようにあるべきかを議論する時期に来ています。

そこで、2015 年度から ATAC カンファレンスは以下のキーワードをもって新しい活動を開始しています。

A : Augmentative (拡大)
T : Talent (能力)
A : Acceptable (受容)
C : Community (コミュニティ)

その一方でまだ十分な技術が確立されてなく、生活に大きな困難を抱える人たちの支援を ATAC が失ったわけではありません。今まで通り AT (Assistive Technology) と AAC (Augmentative and Alternative Communication) という柱も重要であり、これまで大切にしてきた課題にも ATAC カンファレンスが引き続き挑戦する姿勢は変わりません。

ATAC カンファレンスは、教室の中、会社の中、施設の中、グループの中でどうしていいのか悩む人たちにとって有用な考え方や技術、また様々な情報を提供できる会です。講演・展示・セミナー・研究や実践発表を通じて多くのことを学んで下さい。

今年のテーマ「デザインする」

「デザイン（設計）」は、物に対しても、人に対しても、組織や社会に対しても幅広く当てはまる考え方や実践のあり方です。ところが、意匠デザインや造形デザインなど物に対するデザインを意識する事はあっても、人や組織をデザインするといった議論は普段の生活の中であまり聞きません。

物に対するデザインは比較的自由です。一方、人に対するデザイン（教育・リハビリーション）は1つの方向性を持っています。多くの人と同じ事が出来るようになることが教育であり、その事が将来の生き易さに結びつくと考えられています。人々が属する社会や組織は法律や制度によって決められており、その社会や組織をもう一度デザインし直す事は容易ではありません。そこで多くの人は、社会や制度を変えようとするよりも人をデザインする方が容易だと考えるでしょう。

しかし、全ての人を同じ方向にデザインすることは出来ません。テクノロジーで補償しても、医療技術で治療しても、それは困難です。仮に可能になったとしてもその行為は多様性を奪い、同じグループの中での競争をさらに激化させていくだけでしょう。これまでデザインされてきた人も、その個性を隠し、ストレスを感じながら生きているに違いありません。それが社会性であり常識であると誰もが信じて疑いませんが、人をデザインするプロセスの中でどんどん人間らしさが失われていくように感じます。

人の個性や認知特性を活かしながら学べる・暮らせる・働く場とは何かについて、今年の ATAC カンファレンスは「デザイン」という言葉を切り口に議論してみたいと思います。

今年の ATAC カンファレンスのセミナー概要

Academic Day (12/9) は、既存の古典的な特別支援教育や福祉の研究の枠の中から抜けて、誰もが生き易い社会を構築するための能力観・社会制度などを学術的に議論する日です。学校、福祉施設、企業など多方面の現場で行われている優れた実践や研究開発、ユニークな取り組みについて、参加者から研究発表を募集しています。一般的の学会発表とは違い、自由な雰囲気の中で発表を聞き、その場で専門家のアドバイスや指摘を受け、より良い研究を現場の実践家の人たちに学んで頂く場を作ります。聴衆はそのやり取りを介して、日常の実践の振り返りに役立てていただけます。

Gathering Day (12/10) は、立場や分野を超えて様々な人が集い、考え、語り合う日です。今年の ATAC のテーマは、「デザインする」。人を、組織を、社会を。物を、場を、環境を。

様々な分野でデザインすることにこだわるプロフェッショナルの意識に触れながら、大いに自分自身やご自身の環境に思いを馳せてください。同時間帯には、機器展示やデモ、実践発表、個別相談を行います。目の前に展示される技術やサービスを知るだけでなく、それがどういった意味をもち実践へつながるのか、各自の現場にリアルに役立つものとなるでしょう。Gathering Day の最後はイブニングセッションを予定しております。一日を振り返り、様々な人とゆったり語り合える時間になればと願っています。

Practical Day (12/11) は、これまで ATAC で行ってきたブリカンファレンスです。各自が具体的に学びたい内容を選択し、実用的な知識や考え方を身につけていただけます（事前登録制）。午前、午後ともに7個ずつのセッションがあり、選択いただいたセッションによっては、出展企業による製品の紹介も一部ございます。

参加についてのご案内

〈受付について〉

- ・ 12/9（金）、12/11（日）は京都国際会館正面玄関より、12/10（土）は、京都国際会館アネックスホール入口より入場下さい。
- ・ 受付でお名前をお伝え下さい。名札ストラップ及び領収書、関係資料等をお渡しします。
- ・ この名札ストラップによってA T A Cカンファレンスの参加者と認められますので、開催期間中、会場内では必ず着用して下さい。

〈セミナーへの参加について〉

- ・ 12/10（土）に開催される「相談コーナー」は、先着順の申し込みとなります。
- ・ 12/10（土）に開催のイブニングセッションは参加費無料です（事前登録制）。
- ・ 12/11（日）のプログラムは、事前登録制となっております。事前にご登録いただいたコース以外の受講はできませんので、ご了承下さい。

〈テキストについて〉

- ・ カンファレンス資料（Proceedings）は、1冊1,000円にて販売します。

〈お荷物のお預かりについて〉

- ・ 12/9（金）は、会館常設のクローケをご利用下さい（17:00まで）。
- ・ 12/10（土）、12/11（日）は、A T A Cでもクローケを設けています（場所は裏面内側ページのマップにてご確認下さい）。こちらでお荷物をお預かりしますが、貴重品については、各自での管理をお願いします。貴重品等の紛失・損傷・盗難等は、一切の責任を負いかねますことご了承下さい。
- ・ 12/10（土）のクローケのご利用時間は、17:00までとさせていただきます。イブニングセッション（参加 事前登録制）には、お荷物を持ってご参加下さい。

〈セミナーの撮影・録音について〉

- ・ **セミナーでの撮影・録音は、他の方の聴講の妨げとなる場合がありますので、原則的に全面禁止とさせていただきます。** 特別な理由で記録が必要な場合は、事務局までご相談下さい。なお、**写真・映像についてのSNSへの掲載・情報発信はご遠慮下さい。**

〈食事について〉

- ・ 12/10（土）、12/11（日）は、会場横でお弁当等の販売を予定しております。12/9（金）の販売はありません。必要な方は、あらかじめ昼食をご持参いただく事をお勧めします。
- ・ 会館内にはレストラン「グリル」（営業時間10:00～17:00）があります。
- ・ 12/10（土）は、アネックスホール横（ランチコーナー）にて、コーヒー・ドーナツ等の販売も行っていますので、どうぞご利用下さい。
- ・ セミナー会場内での飲食は可能です。ごみの始末にご協力を願いいたします。

〈喫煙について〉

- ・ 会場内はホール、通路を含め禁煙です。指定場所以外での喫煙は、ご遠慮下さい。

〈お車でお越しの方へ〉

- ・ 会場の第1駐車場は工事中のため、駐車許可証が必要です。必要な方は、受付までお越し下さい。

〈休養場所について〉

- ・ ご気分が悪くなられた方、お子様のおむつ交換などのスペースをご希望の方は、受付までお越し下さい。

〈アンケートご記入のお願い〉

- ・ 当日、受付での関係資料の中にアンケートを同封しますので、ご記入をお願いします。お帰りの際に、受付横のボックスにお入れ下さい。

〈当日の連絡先〉

- ・ カンファレンス中のA T A Cカンファレンス事務局への連絡は **080-1032-1705** まで。

セミナー・イベントについてのご案内

ATAC 時間 12/10 (土)

12/10 (土) は、 ATAC 時間での進行となります。

詳しくは8ページを確認ください。

■書籍販売について

12/9 (金) から 12/11 (日) の ATAC の期間中、会場内において、障害者関連専門書店『スペース 96』による書籍販売が行われます。どうぞお立ち寄りください。

ATAC 講師による相談会 Room : Annex 2 ペーパードーム内 12/10 (土)

ATAC 講師による相談会を行います。日ごろ悩んでいること、疑問に思っていることなど、ゆっくりと直接相談できる時間です。申し込みは先着順となります。

詳細、申し込み方法は右ページを確認ください。

■イブニングセッション について 12/10 (土) 17:00-18:30

会館内で、軽食と飲み物を用意したイブニングセッションを開催します。Gathering Day の締めくくりとして、今年は参加者に無料で自由な時間を過ごしていただけるように企画しております。是非、様々な方とのゆっくりとした語らいをお楽しみください。参加費はかかりませんが、事前のお申し込みが必要です。なお、10日にご参加いただいている方限定とさせて頂きます。

■託児・サポートサービスについて

託児サービスのご利用は、事前にお申し込みを頂いた方のみとさせていただきます。当日のお申し込みは出来ませんのでご了承ください。ご気分が悪くなられた方、お子様のおむつ交換などのスペースをご希望の方は、受付までお越しください。

日時：12/10 (土)
場所：Annex2 ペーパードーム内

ATAC講師による相談会

についてのご案内

日ごろ悩んでいること、疑問に思っていることなど、ゆっくりと直接相談できる時間です。個別のご相談をご希望の方は、下記の内容をご確認いただき、当日受付にてお申込みください。具体的なアドバイスをもらったり、これまでの活動への自信をつけたり、また新しい視点を得たり、是非有意義な時間を作ってください。皆様のご相談は、以下4つのカテゴリーでお受けいたします。

ご相談を伺う各講師の専門とする相談キーワードは下記の通りですが、スケジュールについては当日の受付に掲示いたしますのでご確認の上、お申込みください。

ATAC相談会には、幾つかルールがあります。

- ★各講師の相談時間は約1時間。
- ★当日受付にて先着順に各相談枠につき4名の方のご相談をお受けいたします（要申込み）。
- ★4名の相談内容はその場で共有となります。公開できる範囲内でご相談ください。
- ★相談のお申込みはお一人様、一度に一つのみとさせていただきます。
- ★当日予約をいただき、ご都合が悪くなった場合は、受付までご連絡ください。

講師	所属	相談受付け内容のキーワード	時間
----	----	---------------	----

■読み書き相談ドーム

学習に困難を抱えた子どもをエンハンスするツールについて

河野 俊寛	金沢星稜大学人間科学部 教授／言語聴覚士	読み書き困難の評価	当日確認ください
平林 ルミ	東京大学先端科学技術研究センター 助教／言語聴覚士	読み書きを支援するアプリケーション	当日確認ください

■学習教材・教具ドーム

学習理解に困難を抱えた子どものための教材・教具について

井上 賢子	松江市立意東小学校 教諭	学習につまずく子どもの教材・教具	当日確認ください
-------	--------------	------------------	----------

■肢体不自由のコミュニケーション相談ドーム

重度肢体不自由のある人のコミュニケーションを支えるツールについて

巖淵 守	東京大学先端科学技術研究センター 准教授	身の回りにあるテクノロジー（アルテク）を活用した支援技術開発	当日確認ください
奥山 俊博	東京大学先端科学技術研究センター 学術支援専門職員	福祉制度 / 支援技術 / 肢体不自由 / 障害のある学生の生活支援	当日確認ください
谷口 公彦	香川県立高松養護学校 教諭	重度肢体不自由の子どもたちの自立支援活動	当日確認ください
佐野 将大	香川県立高松養護学校 教諭	重度重複障害の子どものコミュニケーション	当日確認ください
武長 龍樹	東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員	重度重複障害の子どものコミュニケーション行動に関する科学的観察と支援	当日確認ください

■知的障害・自閉症のコミュニケーション相談ドーム

知的障害のある人のコミュニケーションを支えるツールについて

青木 高光	長野県稻荷山養護学校 教諭	自閉症・知的障害のある子どものシンボルコミュニケーション	当日確認ください
-------	---------------	------------------------------	----------

12/09 (金) 9:30 - 16:40

受付開始時間 9:00

Academic Day

◇ 実践研究を通じて、日々の取り組みを考える

Room : C-1

これまでの ATAC では多くの実践や開発が報告されてきました。また、人とつながり出会う中で、施設、学校、企業など多くの現場でも、優れた実践や研究開発、ユニークな取り組みがなされていることを聞きます。それらの活動を、客観的に整理し広く共有していくチカラをつけませんか？それらを議論し、日々の取り組みを考えてみませんか？

Academic Day は、既存の古典的な特別支援教育や福祉の研究の枠の中から抜けて、誰もが生き易い社会を構築するための能力観・社会制度などを学術的に議論する日です。一般的な学会発表とは違い、自由な雰囲気の中で発表を聞き、その場で専門家のアドバイスや批判を受け、より良い研究を現場の実践家の人たちに学んで頂く場としたいと考えています。歯に衣着せぬコメントが研究計画・分析方法・まとめ方などについて鋭くコメントします。聴衆はそのやり取りを介して、日常の実践の振り返りに役立てていただけます。

発表者はそこで得たコメントをもとに学術論文を執筆し、後日発行される電子ジャーナル『Journal of ATAC (仮称)』(2017年10月に発行予定)に投稿することができます。

コメントタタ：

中邑 賢龍 (東京大学先端科学技術研究センター 教授)

巖淵 守 (東京大学先端科学技術研究センター 准教授)

近藤 武夫 (東京大学先端科学技術研究センター 准教授)

9:30	オープニング
9:45 発表 1	「子どもの反応の様子を共有することでコミュニケーションの改善がはかられた事例～重度知的障害と肢体不自由を併せ持つ女児を対象に～」 佐野 将大 (香川県立高松養護学校) 本稿では、ある重度重複障害の女児を対象として、OAK という観察ツールを用いた実践事例を報告する。本実践ではまず、(1)どのような刺激に、どのように反応しているのか、また(2)刺激を提示する適切な方法はどのようなものかを OAK を用いて観察した。さらにその観察結果を(3)保護者に伝えると家庭での日常のやりとりはどう変容するのかについて、保護者へのアンケートを通じて調査した。OAK による観察をもとにした日ごろのコミュニケーション支援について考察した。
10:15 発表 2	「飲み物の選択における重度・重複障害児の自己決定の支援～専門家と一般大学生による評価の違いから客観的なコミュニケーションを考える～」 武長 龍樹 (東京大学先端科学技術研究センター) 重度・重複障害児が 2 つの飲み物のどちらを好むのかを担任教員が聞き取るビデオ映像を収集した。その映像を専門家と一般大学生によって評価した。その結果、両者ともに聞き取りの手続きが適切だと評価しているほど教員による選好判断への同意する関連がみられた。一方で、飲ませた際の表出にもとづく選好判断については、専門家の方がより同意するという違いもみられた。これらの結果から客観的なコミュニケーションのための手続きについて考察した。
10:45	Break
11:00 発表 3	「自閉スペクトラム症の人への合理的配慮としての絵カード交換式コミュニケーション・システム (PECS) ～アナログ PECS から i Pad 用アプリケーション PECS IV+へ～」 門 真一郎 (京都市児童福祉センター) 自閉症スペクトラムの人へのコミュニケーション支援には、補助代替コミュニケーションが必要であるが、中でも絵カード交換式コミュニケーション・システム (PECS) は、『自発的な』意思の表出を教える方法として優れている。しかも i Pad 用のアプリケーションも開発された。これにより、利用者自身が絵カードを作成でき、自立度は一層高くなる。報告では、23 歳男性の 10 年余にわたる PECS 使用の様子を紹介する。

11:30 発表 4	<p>「発達障害者向け自動車運転免許取得のための支援教材の検討」 宮田 圭介（静岡文化芸術大学）</p> <p>本研究は、発達障害者の運転免許取得支援を行う自動車教習所と共同制作を行っている、発達障害教習生向け自習教材アプリの検討報告である。まず、学科教習用デジタル支援教材のサンプルを用いて、教習所の職員が求める教材内容のヒアリングを行った。その意見をもとに、教習所での個別指導用勉強支援教材をベースとする自習教材アプリと、仮運転免許学科試験用自習教材アプリの2種類を試作した。</p>
12:00 発表 5	<p>「障害理解に向けたワークショップの提案 ～小中大学生での市販ゲームの共用体験ワークショップ～」 井手 将文（佐賀大学）</p> <p>本ワークショップ（以下、WS）は、重度身体障害者自身がインストラクタとなって操作説明や実演を行い、参加者は体幹機能や顎、腕、息等の障害者が行う方法で市販ゲーム機やパソコンの操作を体験することで、障害の多様性と人間の可能性を理解する参加体験型学習である。このWSに参加した小中大学生 507名のデータから効果を検証し、併せて重度障害をもつ当事者だからこそできる新しい仕事としての可能性について言及する。</p>
12:30	<p style="text-align: center;">Break</p>
13:30 発表 6	<p>「低成績の子どもの学びを支える 8 年間の取り組み ～低成績及び不登校や経済的困難さのある子どもの学習支援から見えてきたこと～」 関口 あさか（埼玉県立熊谷特別支援学校）</p> <p>不登校や低成績の子どもたちの学習支援を、8 年前より行ってきた。そのような子どもたちの背景には、いじめや人間関係のトラブル、障害のあるきょうだいの存在と親からの過度のプレッシャー、虐待、体罰など様々な理由があった。8 年間の中でテクノロジーの発展に伴い支援のスタイルや支援の幅が変化した。本発表では取り組みから見えてきた効果的な支援や、このような子どもたちにとっての必要な仕組みについて報告・提案する。</p>
14:00 発表 7	<p>「肢体不自由児の ICT 活用に役立つ教材づくりへの挑戦 ～組み立て式ロボット「Rapiro」をスクラッチで制御するためのパズル・スイッチ BOX の試作～」 水谷 浩（東北福祉大学）</p> <p>ブロック型ビジュアル・プログラミング言語のスクラッチ（https://scratch.mit.edu/）は、ソフトウェアの開発・創作を楽しみながら、誰もが知らず知らずのうちにプログラミングの基礎知識を身につけられることから、次世代の子どもたちの ICT 活用に有用な学習教材のひとつとしての注目されている。とりわけ、難しい英単語、数字や記号の組み合わせ（構文）を覚えなくとも、絵や図などを用いて、直感的にプログラミングが可能なことから、文字の読み書きが苦手な子どもたちの ICT 活用の支援にも役立つ。現在、わが国では、初等中等教育段階におけるプログラミング教育の必修化という時代の潮流にあって、小・中学校の授業にスクラッチを採用し、ゲームやインタラクティブ・アニメーションの開発や創作などの取り組みが活発化している。しかしながら、文字の読み書きが苦手で、かつキーボードやマウス操作も困難な子どもたちが、代替入力装置によって、スクラッチを操作し、実際にモノを動かしたり、音や光の制御を可能にするなど、ハードウェアの仕組みを理解するのに役立つ教材づくりへの試みは少ない。本発表では、キーボードやマウスの操作が困難で、かつ文字の読み書きも苦手な子どもたちが「絵や図などを組み合わせれば、モノを動かすことができるんだ。音や光も変えられるんだ！」ということを体得してもらおうための学習教材づくりをめざしている。その一環として、組み立て式ロボット「Rapiro」をスクラッチで制御するための代替入力装置（パズル・スイッチ BOX）の試作について報告する。やがてこれらの試みが、アシスティブ・テクノロジー（支援技術）という視点から、ICT の可能性を広げていくきっかけになれば幸いである。</p>
14:30	<p style="text-align: center;">Break</p>
14:45 発表 8	<p>話題提供 「AI 時代のデータ処理の考え方」 中邑 賢龍・巖淵 守・武長 龍樹（東京大学先端科学技術研究センター）</p> <p>グーグルやアマゾンといったサービスは、人工知能やベイズ統計を使ってデータを処理しています。このようなデータの扱い方は、平均値を計算するようなこれまでの統計とは、何が違うのでしょうか。人間の科学におけるデータの扱い方が、どう変わっていくのか議論します。</p>
15:30 特別レクチャー	<p>「ベイズ統計の基礎と応用例」 清水 裕士（関西学院大学）</p> <p>近年、さまざまな領域でベイズ統計を用いたモデリングが主流になりつつある。本講演では、ベイズ統計モデリングとは何か、既存の方法論と比較してどのような利点があるのかについて解説する。また、ベイズ統計モデリングが実践研究にどのように応用できるかについても議論を行いたい。</p>
16:30	<p>まとめ</p>

12/10 (土) Gathering Day

今年の ATAC カンファレンスの **Gathering Day** (12 月 10 日) は

ATAC 時間 で進行します。

忙しい日々の中で、時間を止めてもう少し時間が使えればと
考える人も多いのではないかでしょうか。

今年の ATAC カンファレンスでは自分の時計や携帯電話を捨てて、
ATAC が用意した時計だけを見て過ごして下さい。
会場や受付にある時計は ATAC 時間を示しており、
プログラムは全てその ATAC 時間で進行します。

皆さんの時計では動いていないので注意して下さい。

一日のプログラムが

終わった時、皆さんは ATAC 時間を抜けていつもの標準時間に戻ります。
何が起こるか想像してみて下さい。
きっと心にゆとりが生じるはずです。



App Store よりダウンロードいただけます
アプリ名：LuckyClock ATAC バージョン
料金：無料

ATAC 時間についてのアンケート URL は以下になります。
ぜひご協力ください。

<https://goo.gl/forms/WVG6LKNd2xbQBmKt2>



時間	Room : Annex 1	Room : Annex 2
9:20	「デザインを通して学び・働きを考える」 中邑 賢龍 オープニング	
9:30	「学びの意欲を失った子どもたちが 料理で再び学び始める仕組みとは」 福本 理恵, 協力: 株式会社 エデュアス 教え方をデザインする	企業・団体 製品展示 ポスター発表
10:20	「超短時間雇用という新しい働き方のデザイン」 近藤 武夫, 協力: イースト 株式会社 社会をデザインする	9:40 - 11:00 相談
11:10	Break	
11:50	「プロデュースする力 -作品を生かす場・人を生かす場のデザイン-」 鈴木 康広・中邑 賢龍, 協力: 富士通 株式会社・日本マイクロソフト 株式会社 場をデザインする	
13:05	Break	
14:25	「常識を覆すデザインのあり方 -透明人間は作れるのか-」 稻見 昌彦 物・環境をデザインする	14:25 - 15:40 相談
15:40	Break	
16:20	「紙でロボットを作り, 貧困社会の教育を変える」 西山 浩平 社会をデザインする	16:20 - 17:35 相談
17:10	「産業医からみた学校や会社のデザイン」 三宅 琢 組織をデザインする	
18:00	「ナースらしくないナースを目指して」 矢田 明子 関係をデザインする	
18:15	「社会をデザインできる社会へ」 中邑 賢龍 まとめ	
:	「イブニングセッション」 <事前登録制> 会場内で、簡単な軽食と飲み物を用意したイブニングセッションを開催します。Gathering Day の締めくくりとして、今年は参加者の方々に無料で自由な時間を過ごしていただけるように企画しております。是非、様々な方とのゆっくりとした語らいをお楽しみください。定員がありますので事前に申し込みが必要です。イブニングセッションへの参加費は無料ですが、10日にご参加いただいている方限定とさせていただきます。	

12/10 (土)

9:20 - 18:30

受付開始時間 9:00

Gathering Day

◇ 皆で集まりこれからの社会を議論し、整理する

Room : Annex 1

Gathering Day (12/19) は、立場や分野を超えて様々な人が集い、考え、語り合う日です。

今年の ATAC のテーマは、「デザインする」。人を、組織を、社会を。物を、場を、環境を。

様々な分野でデザインすることにこだわるプロフェッショナルの意識に触れながら、大いに自分自身やご自身の環境に思いを馳せてください。同時間帯には、機器展示やデモ、実践発表、個別相談を行います。目の前に展示される技術やサービスを知るだけでなく、それがどういった意味をもち実践へつながるのか、各自の現場にリアルに役立つものとなるでしょう。Gathering Day の最後はイブニングセッションを予定しております。一日を振り返り、様々な人とゆったり語り合える時間になればと願っています。

[ATAC 時間] ※詳細は8ページを確認ください

9:20 - 9:30	<p>「デザインを通して学び・働きを考える」 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）</p> <p>今年の ATAC カンファレンスの主旨を説明し、この日のプレゼンテーションのオリエンテーションを行います。</p>	オープニング
9:30 - 18:30	<p>企業・団体製品展示</p> <p>ポスター発表</p>	
9:40 - 17:35	<p>ATAC 講師による相談会</p> <p>ATAC 講師による相談会を行います。日ごろ悩んでいること、疑問に思っていることなど、ゆっくりと直接相談できる時間です。お申込みは、当日、先着順で受け付けます。</p> <p>[予定講師]：河野 俊寛（金沢星稜大学）、平林 ルミ（東京大学先端科学技術研究センター）、井上 賢子（松江市立意東小学校）、巖淵 守（東京大学先端科学技術研究センター）、奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター）、谷口 公彦（香川県立高松養護学校）、佐野 将大（香川県立高松養護学校）、武長 龍樹（東京大学先端科学技術研究センター）、青木 高光（長野県稻荷山養護学校）</p>	
9:30 - 10:20	<p>「学びの意欲を失った子どもたちが料理で再び学び始める仕組みとは」 福本 理恵（異才発掘プロジェクト ROCKET プロジェクトリーダー）</p> <p>教科書で学ぶ事が嫌いになった学習の遅れのある子ども達は、さぼったり頭が悪いのではなく学びのスタイルが違うかもしれません。遅れた子ども達に学年以下の教材を学ばせるのではなく、料理等のアクティビティを通して教科を学ぶことの出来る場が必要かもしれません。</p> <p>協力： 「ハイブリッド・キッズ・アカデミー」 株式会社 エデュアス http://www.eduas.co.jp/</p> <p>ハイブリッド・キッズ・アカデミーは、読み書きや学習につまずきのある子どもたちにテクノロジーを使った学び方を提供しています。ハイブリッド・キッズ・アカデミーは、テクノロジーを使った新しい学び方・学ぶ技術をすることで失った自信を取り戻し、子どもたち自身に未来を切り開く力を持つ日本で唯一の塾です。</p>	教え方をデザインする
10:20 - 11:10	<p>「超短時間雇用という新しい働き方のデザイン」 近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）</p> <p>法定雇用率の達成のための 1 週 30 時間労働というルールは雇用主・被雇用者双方にとって負担が大きい場合があります。仕事を出せる時間が短くても、体力不足等の理由で働ける時間が短くても、働けるシステムがあればより多くの人が働けるはずです。各地で始まった新しい雇用の試みを紹介します。</p> <p>協力： 「Word 文書を読み上げる「WordTalker」のご紹介」 イースト 株式会社 http://www.est.co.jp/</p> <p>障害者差別解消法の施行により、社会のさまざまな場所で「合理的配慮」が必要とされます。Word 文書を読み上げることで、文字を読むことに不自由がある方の理解を手助け、就労や学習に役立つアドインソフト「WordTalker」をご紹介します。</p>	社会をデザインする

11:10-	Break	企業・団体製品展示	ポスター発表
11:50 - 13:05	「プロデュースする力 - 作品を生かす場・人を生かす場のデザイン -」 鈴木 康広（武蔵野美術大学 准教授／アーティスト）・中邑 賢龍	どんなに素晴らしい作品もそれが置かれる空間によっては評価されないものになる事があります。 教育も同じかもしれません。毎日デザイン賞を受賞したトップアーティストとの対談を通じて人や物の魅力を活かす場のデザインを考えます。	
	協力： 「特別な支援を必要とする子どもたちの学びを支援する ICT 利活用」 富士通 株式会社 http://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/school/support/ 特別な支援を必要とする児童生徒の学習や学校生活をサポートする、 富士通のタブレット端末「FUJITSU Tablet ARROWS Tab Q507/PE」や 特別支援向けソフトウェア「キッズタッチ」についてご紹介します。	場をデザインする	
13:05-	Lunch Break	企業・団体製品展示	ポスター発表
14:25 - 15:40	「常識を覆すデザインのあり方 - 透明人間は作れるのか -」 稻見 昌彦（東京大学先端科学技術研究センター 教授）	どうすれば透明人間が作れるのでしょうか？ VR や AR 研究の第一人者の研究成果から常識を覆すデザインの考え方を学んでみましょう。	
15:40-	Break	企業・団体製品展示	ポスター発表
16:20 - 17:10	「紙でロボットを作り、貧困社会の教育を変える」 西山 浩平（株式会社 CUUSOO SYSTEM 代表取締役）	紙のロボットの実用化を想像する人はいないかもしれません。レゴが購入出来ない経済的に貧困な子ども達でも入手出来る紙と輪ゴムでロボット製作を行い、その集合知で次世代のロボットを開発する試みに学びます。	
17:10 - 18:00	「産業医からみた学校や会社のデザイン」 三宅 琢（株式会社 Studio Gift Hands 代表取締役／産業医／眼科専門医）	産業医は手術や薬で人を治療するよりも環境調整をアドバイスしながら適応を促す専門職です。三宅氏はその中でもテクノロジーも積極的に応用した支援を行っています。様々な事例を通して自分自身の学校や職場を見直すヒントを得てみましょう。	
18:00 - 18:15	「ナースらしくないナースを目指して」 矢田 明子（株式会社 CommunityCare 取締役／コミュニティナース）	病気ではない人も健康の不安を抱えるもの。ナースらしきないから気軽に相談出来るはず。独居高齢者など地域で孤立した人々に様々な生活支援情報を届けることで人と人を結びつけコミュニティをデザインするコミュニティナース達の活動を紹介します。	
18:15 - 18:30	「社会をデザインできる社会へ」 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター）	困難に直面した人をデザインする「のではなく、環境や制度を少し変えることで困難さは大きく低減されます。しかし社会をデザインするのは容易ではありません。社会をデザイン出来る社会とは何かを提案します。	

:	Break	まとめ
:	「イブニングセッション」 <事前登録制>	対話を楽しむ

企業・団体製品展示

Room : Annex 2

展示時間 : 12/10 (土) 9:45 - 18:30 [ATAC 時間]

展示時間中はご自由にご覧ください。

同会場内で、ポスター発表（一般発表）も行われています。

企業・団体名（50音順）

(株) アクセスインターナショナル <http://www.accessint.co.jp/>

主な展示品・サービス：トラックボール、ジョイティックマウス、ボードメーカー、V O C A (テック／トーク、パートナーワン)、トーキングエイド for iPad、あのね♪DS、イヤーマフ、タイムタイマー、文房具、カレンダー

iPad アプリ「トーキングエイド for iPad」では、法人様で購入しやすい形態のライセンス版が人気です。また、ニンテンドーDS 対応「あのね♪DS」はキャンペーン価格が人気です。絵カード作りの定番ソフト「ボードメーカー」をお試しいただける他、タイムタイマー、イヤーマフ、使いやすい文房具などフルラインナップで紹介いたします。

公益財団法人 伊藤忠記念財団 <http://www.itc-zaidan.or.jp/>

主な展示品・サービス：わいわい文庫（マルチメディア DAISY 図書）【児童書】

伊藤忠記念財団は、児童書を電子化（マルチメディア DAISY 規格）し、「わいわい文庫」と名づけ、全国の学校、公共図書館、医療機関などの団体へ無償で提供しています。様々な障害が原因で、通常の本では読書が困難な子どもたちへ、新しい読書スタイルの提案として実施しています。マルチメディア DAISY 図書のパソコンやタブレットでの実演とともに、財団が製作しました 250 作品を超える児童書の書影ポスターなどを展示します。

異才発掘プロジェクト ROCKET <https://rocket.tokyo/>

ROCKET (Room of Children with Kokorozashi and Extraordinary Talents) は、突出した能力はあるものの現状の教育環境に馴染めず、不登校傾向にある小・中学校生を選抜し、継続的な学習保障及び生活のサポートを提供するプログラムです。

HMDT (株) <http://hmdt.jp/products/droptalk/>

主な展示品・サービス：AAC アプリケーション「DropTalk」の展示紹介

DropTalk は、iOS や Android OS のタブレット端末向けアプリです。話し言葉でのコミュニケーションを苦手とする、自閉症や言語障害を持つ方のコミュニケーションを助ける AAC ソフトウェアです。

DropTalk では、現在開発中で来春公開予定の Windows 版を展示します。また、9 月にリリースしたばかりの Android 版では、iOS 版と同時に充実した機能を体感していただけます。従来からの iOS 版では、9 月に実装済みのペアレンタルロック設定による編集制限機能を初め、開発中の新機能を実際のデバイスで操作していただきます。

(株) エデュアス <http://www.eduas.co.jp/>

主な展示品・サービス：魔法のプロジェクト

魔法のプロジェクトは携帯情報端末を教育現場でご活用いただき、その有効性を検証し、より具体的な活用事例を発表していくことで、障がいを持つ子どもの学習や社会参加の機会を増やすことを目指しています。優れた事例を発表いただいた実践校から選定された魔法のティチャーパロジクトや活用についてお話しいただけます。

(株) CommunityCare <http://community-care.jimdo.com/>

主な展示品・サービス：コミュニティナースがいつもあなたと共にいる社会

コミュニティナースは、いつも地域のなかに居て、"健康的なまちづくり"をする医療人材です。地域で暮らす人々に様々な生活支援情報を届けることで人と人を結びつけコミュニティをデザインする、コミュニティナース達の活動を紹介します。

シナノケンシ (株) <http://www.skcj.co.jp/>

主な展示品・サービス：PLEXTALKProducer (DAISY 制作ソフトウェア)、いーリーダー (iPad 用 DAISY 再生アプリ)

読むことに困難のある子どもへの支援として DAISY の活用をご提案します。DAISY 再生アプリ「いーリーダー」、ワープロ感覚で手軽に DAISY 製作ができるソフト「PLEXTALKProducer」、製作した DAISY や教科書のタブレット端末への取り込みまで、シナノケンシは教育現場向けに DAISY を「使う 作る 送る」のトータルでご案内します。

(有) スペース 96 <https://www.space96.com/>

障害者関係専門書店。12/9-11 の全期間の出展となります。

(株) タオ <http://www.tao-st.co.jp/>

主な展示品・サービス：マルチメディア学習システム「天神」

「天神」は、幼児版から、小学版、中学版、高校版まで揃った、自立学習唯一のフルサポートシステムの e-Learning 教材です。これまで、900件以上もの学習塾、小・中・高等学校、放課後デイサービス、幼児教育、リメディアル教育、特別支援教室などで選ばれています。第10回日本 e-Learning 大賞（後援：文部科学省、経済産業省、総務省、厚生労働省等）では、大賞となるグランプリを受賞いたしました。

DO-IT Japan <https://doit-japan.org/2016/>

障害や病気のある小中高校生・大学生の高等教育への進学とその後の就労への移行支援を通じ、将来の社会のリーダーとなる人材を育成するため、「テクノロジーの活用」を中心的なテーマに据え、「セルフ・アドボカシー」、「障害の理解」、「自立と自己決定」などのテーマに関わる活動をしています。

日本マイクロソフト（株） など <https://www.microsoft.com/ja-jp/>

主な展示品・サービス：Windows 10 と対応支援技術機器、アプリ

様々な支援技術機器、アプリをまとめてご紹介します。

操作・活動支援：「伝の心」「オペレートナビ」、「なんでもワイヤレス」、「Pete」、「OAK Cam」

マルチメディア DAISY コンテンツ制作、閲覧：「ChattyInfty」「ChattyBooks」

Word 読み上げアドインソフト：「WordTalker」

着せ替えマッチングゲーム 「ぽんぽんわーるど おしごとなに？」

コミュニケーション支援：「Pete コミュニケーションエイド」など。

パステルハートプロジェクト（女子美術大学） <http://www.rainbow-project.net/>

主な展示品・サービス：発達障害や知的障害のある児童生徒を対象とした防災教育アプリ

「スキナのセレク島シリーズ」「チップス」

主に自閉症などの発達障害や知的障害のある児童生徒を対象とし、学校や家庭、地域で活用できる防災教育用ツール、ならびに災害時に保護者、支援者らとのコミュニケーションをサポートするツールとして活用できる 3 種類の ipad アプリをご紹介します。 (1) いざ！にそなえる学習ツール「まるばつクイズメーカー」 (2) 気持ちを安定させるための「パウンドボックス」 (3) コミュニケーションサポートツール「すききらいカメラ」 (4) いざ！というときのための防災＆コミュニケーションツール「チップス」

富士通（株）

主な展示品・サービス：FUJITSU 文教ソリューション K-12 特別支援 キッズタッチ、
FUJITSU 文教ソリューション K-12 学習情報活用 知恵たま、
学びの場で安心して使えるスクールタブレット 富士通の ARROWS Tab

21 世紀型スキルの育成に必要な、子どもたち同士が学び合い、教えあう授業や、個々に合わせた学習環境の提供をサポートするソリューションを富士通はご提供します。学びの場で安心して使えるスクールタブレット「ARROWS Tab」、子どもたちの教え合い学び合いを支援する「K-12 学習情報活用 知恵たま」、そして特別な支援を必要とする子どもたちの学びを支援する「K-12 特別支援 キッズタッチ」をご紹介します。

特別支援 - Fujitsu Japan <http://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/school/support/>

学習支援 - Fujitsu Japan <http://www.fujitsu.com/jp/solutions/industry/education/school/learning/>

学びの場で安心して使えるスクールタブレット： School Tablet： 富士通

<http://www.fmwORLD.net/biz/schooldtabletproduct/pro01.html>

（株）ユープラス <http://www.u-plus.co.jp/>

主な展示品・サービス：トーキングエイド for iPad、ぽんぽんわーるど

コミュニケーションを支援する「トーキングエイド for iPad」シリーズのテキスト入力版、シンボル入力版、タイマーを体験いただけます。又、発達障害者用認知訓練アプリ「ぽんぽんわーるど」の「金魚すくいゲーム」「おしごとなに」も展示しますので、ぜひお立ち寄りください。

ATAC 講師によるツールとテクノロジーのデモンストレーション

以下の 4 つのカテゴリーで、様々なツールをその使い方やアイデアと共に分かりやすくご紹介します。

学習に困難を抱えた子どもをエンハンスするツールのデモ：

タッチ & リード, ノイズキャンセリングヘッドフォン, AccessReading など

学習理解に困難を抱えた子どものための教材・教具デモ：

子どもに適する様々な教材や教具

重度肢体不自由のある人のコミュニケーションを支えるツールのデモ：

OAK, 最新のテレビリモコンなど

知的障害のある人のコミュニケーションを支えるツールのデモ：

DropTalk, その他アプリケーション

出口のない家

展示会場のどこかに入口も出口も見つからないドームがあります。

是非近くの誰かと中に入って、ゆっくりとした時を過ごしてみてください。

ポスター発表

Room : Annex 2

展示時間 : 12/10 (土) 9:45~17:00 [ATAC 時間]

掲示は上記の時間中行われていますが、責任発表時間には、発表者がブースにてご説明いたします。
発表責任時間については、それぞれのブースにてご確認ください。

ポスター発表者名

「肢体不自由のある子ども達のための入力システムの開発」

杉浦 徹（長野大学 社会福祉学部）

本発表は、ウェルドニッヒホフマン症候群の1事例に対し、マイクロスイッチを活用した支援機器の試作と適用の経過を報告することを目的としている。マイクロスイッチを複数個並列に接続し、それらをスチロール球に内蔵させ、またその表面に面テープを添付することで、対象児の手の動きに柔軟に対応できる設定を可能にした。発表では参加者にも実際に操作する体験を通じて、支援機器に関する情報交換をしたいと考えている。

「肢体不自由児のための自作教材の効果と課題 ～マジカルトイボックスの実践から～」

禿 嘉人（東京都立光明特別支援学校）

特別支援学校では、支援機器や玩具などの役割をタブレット端末が担うケースが増えているが、子供の実態よっては外部スイッチを利用する必要があり、スイッチや補助機器を活用するための知識や技術はより重要になっている。そこで、特別支援学校で用いられる教材やマジカルトイボックスで開発した支援機器を紹介しながら、活用の際の課題を共有し、自作教材の活用の効果や支援のためのノウハウを体験していただきたいと考えている。

「重力軽減環境訓練システムにおける補助教材の工夫と開発 - 主体的な活動をめざして -」

馬渕 哲哉（大阪府立岸和田支援学校）

本校は肢体不自由の特別支援学校である。ポーランドの Norman Lozinski により重力を軽減し姿勢制御を含む環境に適応する治療機器をコンセプトに開発された THE SPIDER という重力をゴムの張力により軽減し、姿勢制御を促すための機器を導入している。本校の自立活動の時間に、その機器の活用にあたり、生徒がより主体的な活動に取り組めることを目的にアルテク機器を活用し、VR 教材の工夫・開発を行った。

「特別支援教育における ICT 活用の整理

－障害の困難さに応じた「わかりやすい」活用方法の発信を目指して－」

小原 俊祐（神奈川県立鎌倉養護学校）

特別支援教育におけるタブレット端末活用の研究は進み、有効性の検証や事例の紹介がされているが、学校現場では指導力の向上は現在も課題である。これは、活用のイメージや機器に関する知識が不足していることも要因となっている。したがって、教員に対して「わかりやすい」ように活用方法を示すことは重要と考える。本発表では、「魔法のプロジェクト」の事例について研究し、障害の困難さに応じた活用方法をまとめ、紹介をする。

「特別支援教育教材ポータルサイト」の更新状況と今後の展望

金森 克浩（国立特別支援教育総合研究所）

国立特別支援教育総合研究所では、特別支援教育教材ポータルサイトを構築し、様々な利用者への支援機器や教材の情報共有、提供を行っている。また、支援機器等教材を活用した実践的な研修や、支援機器等教材の教育現場における活用方法や事例を紹介するための展示会を開催している。上記の普及事業について紹介し、支援機器等教材の活用方法や情報提供についてポスターセッションを通して情報交換する。

「特別支援学校におけるデータベースサーバ利用の試み」

小野 龍智（佐賀県立金立特別支援学校）

各教科や自立活動などの課題とその段階について、校内で検討して学習内容表を作成した。この学習内容表を基にデータベースサーバを校内 LAN 上に用意し、タブレット PC 等でアクセスして利用できるようにした。保護者との面談の中で利用することで、より効果的に、また効率的に合意形成がはかられるようになった。

「卒業後の自立まで見据えたキャリア発達を促す ICT ツール

～作業学習におけるタブレット PC を用いた支援アプリの開発と授業実践による効用の検証～」

伊藤 史（岐阜県立郡上特別支援学校）

ICT ツールとキャリア教育という視点からキャリア発達を促すツールとして、自分で考える力と態度の育成についての効果的な授業実践を紹介する。事前、事後学習の授業実践から OneNote に学習記録の累積とその役割の価値付けをすることで、生徒一人では気づけない自分自身の新たな意味や視点を伝達してくれると考えた。

「職業体験学習におけるタブレット端末等を活用した方法の提案」

山田 晃嗣（情報科学芸術大学院大学）

スマートフォン・タブレット端末の福祉分野での活用研究会では特別支援学校で行われている職業体験学習にて喫茶でタブレット端末等を活用した取り組みを行ってきた。知的障がい等でこれまで接客体験ができなかった生徒たちが、タブレット端末のアシストで客の注文を受けることができるようになるなど変化が見られた。また ICT 機器を活用した環境を整えることで、先生の依存度を減らし生徒達により達成感や自信を持つ環境とすることができた。

「舞鶴高専と特別支援学校の地域連携による技術教育とその成果」

船木 英岳（国立舞鶴工業高等専門学校）

筆者らは、「特別支援学校教員に対してモノづくり力の向上を図る出前授業を実施する」ことで、自らニーズを解決できる力を養成することを試みている。展示会では、筆者らのスイッチ教材における取り組みを紹介し、授業への適用事例とその成果を報告する。対象児童は、教員が製作したスイッチを使うことで授業への関わり方が受け身から積極的な参加、学習意欲の向上、身体機能の向上に変わり、教員は互いに教え合う姿が見られた。

「拡張現実を用いた音声出力コミュニケーションエイド VCAN/AR

～言語訓練課題における活用法の検討～」

大島 航太郎（新潟大学大学院 自然科学研究科）

我々は、知的障害児の興味を惹きやすい訓練教材を目標として、拡張現実（AR）を用いたPC用ソフト「VCAN/AR」を開発している。VCAN/ARは、絵カードを手で覆うと音声再生およびシンボル表示をするVOCAである。シンボル表示では、ARにより3DCGアニメーションをPC画面中に表示する。本発表では、言語訓練課題を模した使用実験から、VCAN/ARを用いた訓練課題に対する利用者の興味について述べる。

「汎用コミュニケーションエイド VCAN を用いた発達・知的障がい児のコミュニケーション支援 1

汎用コミュニケーション支援ウェブシステム VCAN の使用性評価」

石丸 佑樹（新潟大学 工学部 福祉人間工学科）

我々は、言語・コミュニケーションに問題をもつ子どもの支援を目的として、能力・ニーズに応じて柔軟にカスタマイズできる汎用コミュニケーションエイド VCAN を開発してきた。先行研究で、Web 上でエイド VCAN を作成・更新するエディタとデータ管理を試作した。今回は管理システムから端末に VCAN データをダウンロードし、エイド VCAN を動作させるアプリケーションを開発した。発表では、システムをデモするとともに、使用性について述べる。

「汎用コミュニケーションエイド VCAN を用いた発達・知的障がい児のコミュニケーション支援 2

～言語指導場面において VCAN を用いた事例のこの一年と来年に向けて～」

遠藤 理紗（白根大通病院）

昨年に続き、小6男児の事例を示す。本児の言語指導の目標は、①相手への興味・コミュニケーション意欲を育む、②要求を増やす、③言語能力を向上させる（用途の理解、ひらがなの読み書き等）、④語想起の苦手さを補う、である。昨年に比べ、自発的なコミュニケーションが増し、言語面も伸びた。これは、個別の指導では設定しにくい①②に対して VCAN を利用して楽しくアプローチできること、③④では VCAN を使って本児に表出させる機会を増やせたこと、に依ると考えられる。

「汎用コミュニケーションエイド VCAN を用いた発達・知的障がい児のコミュニケーション支援 3

～言語聴覚療法における VOCA 導入の根拠と具体的方法～」

長谷川 史弥（白根大通病院）

言語聴覚療法では、VOCA を導入して音声言語の獲得を目指すことができる。今回は VOCA の導入を試みた 5 事例をあげ、導入の根拠や位置づけ等について検討した。導入の根拠は大きく 2 つに分けられた。表出を補う手段として使用する場合と、視覚優位の特性を活かし人の関心や言語能力を伸ばす手段として使用する場合である。いずれにおいてもコミュニケーションを拡大する手段として VOCA の有用性が感じられた。今後、言語聴覚療法の場面においても、VOCA を用いた指導法が一般的なものになると良い。

「学習障がい児・者が楽しく学習するためのソフト」

荒木 雄大（島根大学）

我々は、学習障がい児・者の認知特性に合わせた支援に関する研究を行っており、学習に対して強い拒否感を示す児童・生徒でも興味を持って訓練に取り組めるよう配慮し、ゲーム形式の訓練ソフトの開発を行っている。本稿では主に読み書き、注意に困難を示す児童・生徒を対象とした訓練ソフトや、書字、図形の描画等を必要とする検査の支援ソフトを紹介し、それらのソフトを無料で配布する。またソフトの開発・改良依頼も受け付ける。

「発達障害児に対する「デジタル連絡帳アプリ」を利活用したコミュニケーション指導とその効果」

中川 宣子（京都教育大学附属特別支援学校）

本研究では発達障害児に対して、「デジタル連絡帳アプリ（2014、特別支援 ICT 研究会開発：代表中川）」を利活用し、児童の家庭の日常生活映像を教材として用いたコミュニケーション指導の実践を行った。この実践における指導過程と児童の変容過程を分析することで、「デジタル連絡帳アプリ」利活用によるコミュニケーション発達への影響、効果を検討した。

「支援技術の利用を阻むものは何か

-高次脳機能障害者を対象とした支援技術導入の実態調査とその課題に関する研究-」

錦織 翼（医療法人辰川会山陽病院）

携帯電話やモバイル端末は、スケジュールやリマインダーなど様々な機能を一台で利用できるため、高次脳機能障害の補償手段としての有効性が期待されるが、臨床現場においては、それらが十分に活用されているとは言い難い。そこで、本研究では携帯電話やモバイル端末に焦点を当て、それらの利用実態、支援技術に対する態度や認知、障害受容や自身の障害に対する認知、そして今後の支援技術の利用可能性との関連性について検討した。

12/11 (日)

9:00 - 16:00

受付開始時間 8:30

Practical Day

◇ 実用的知識や考え方を身につける

Practical Day (12/11) は、1つのテーマに従って半日じっくり学んでいただけるセミナーです。午前・午後、各7つのコースの中の1つを事前に選択して頂きます（定員制・事前登録制）。知識を得るだけになるのではなく、得た知識を活用できるようにするのがこのセミナーの目的です。

モーニングセッション	9:30-12:00
(コース1のみ)	9:00-12:00
アフタヌーンセッション	13:00-15:30
(コース8のみ)	13:00-16:00

各自、事前に選択頂いているセッションにご参加ください。また、参考資料につきましては、当日販売を行っている カンファレンステキスト (Proceedings) にも一部掲載されています。

Room: 554A	書籍販売 終日、障害者関連専門書店『スペース96』による書籍販売が行われています。休憩時間などに、是非お立ち寄りください。
------------	---

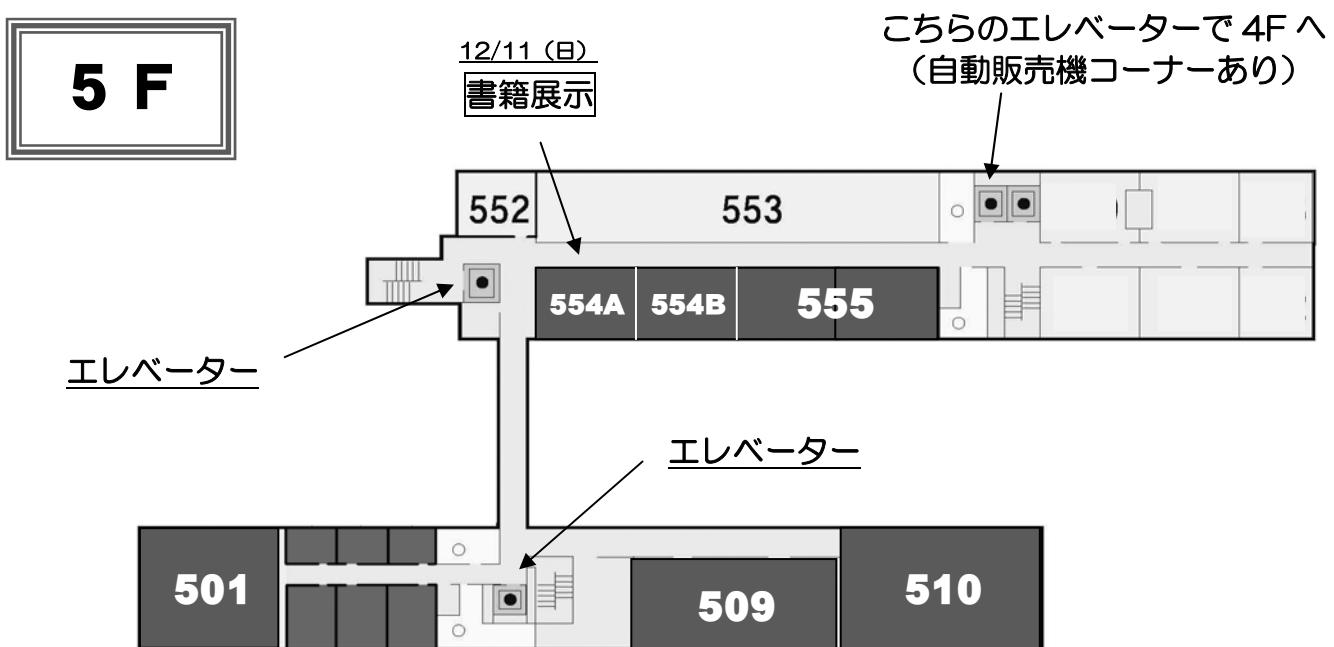
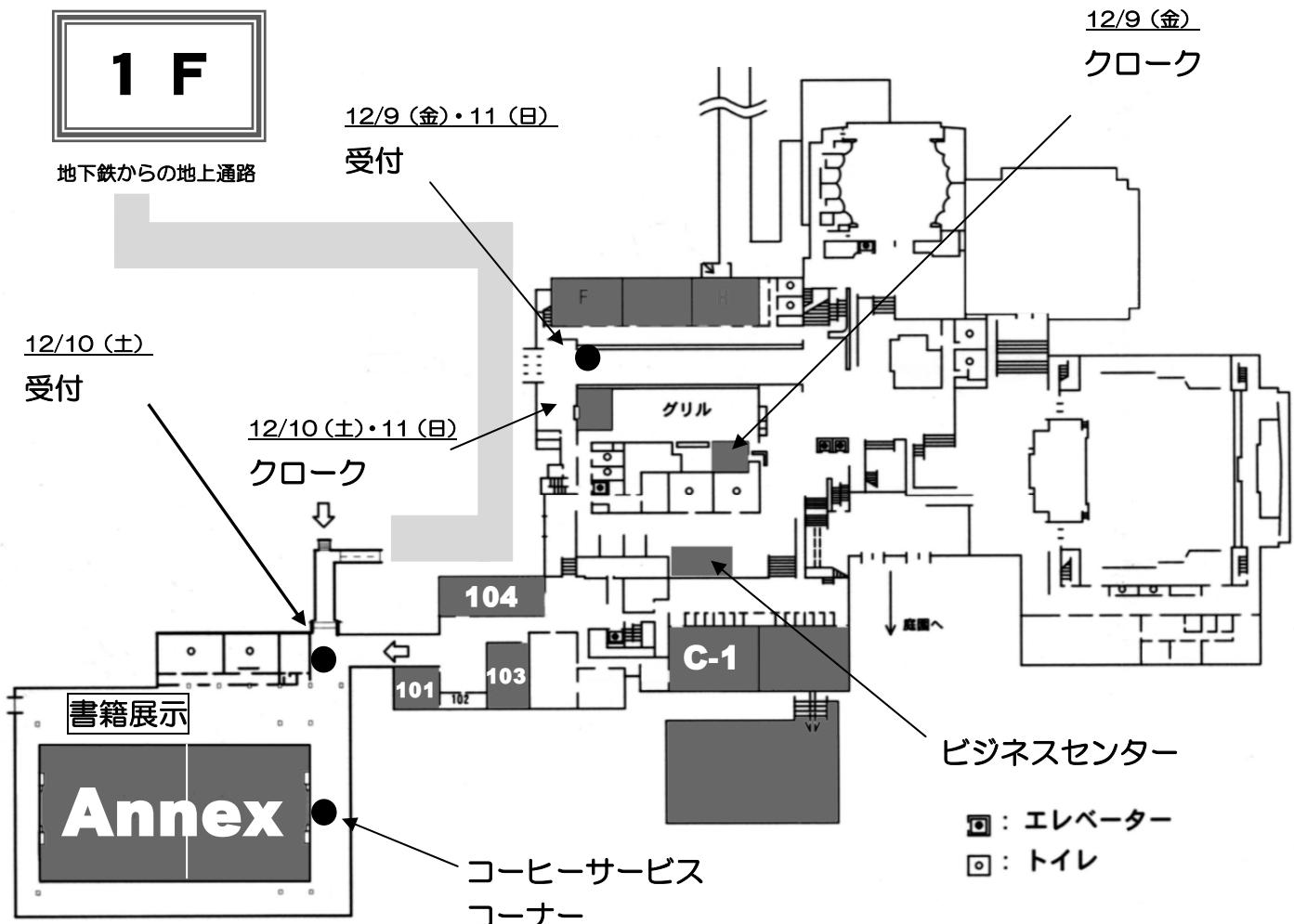
モーニングセッション 9:30-12:00 事前登録制

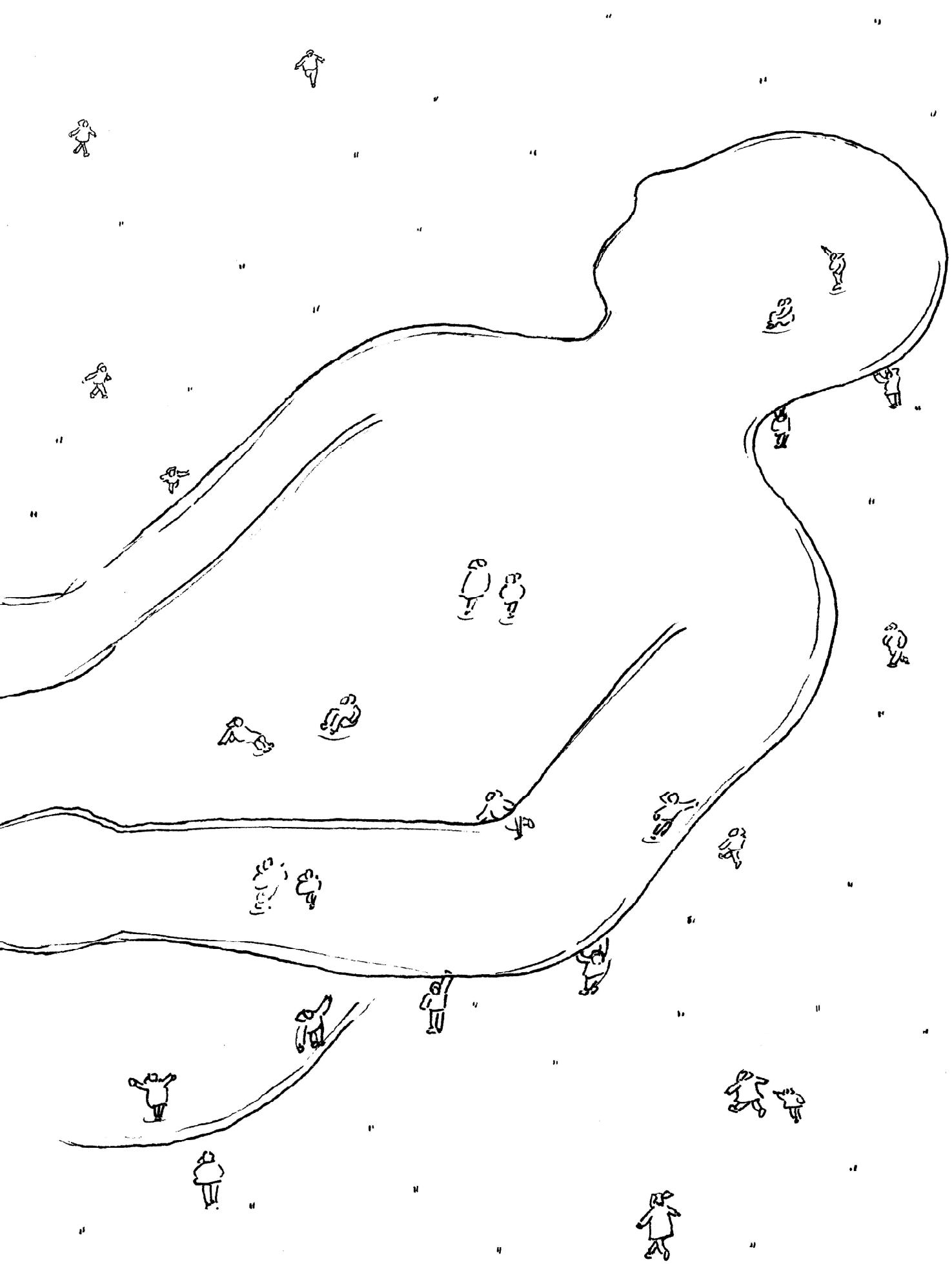
コース 1 Room: 510	<p>「LD・ADHDなど生きにくさを抱えた人たちの学び・働きと合理的配慮」 近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）</p> <p>学びや働きにおける困難さは、本人の努力だけで改善出来るものではありません。テクノロジーによる機能代替や環境調整などの配慮が認められて始めて最大限の能力が発揮出来る人もいます。残念ながら学校や職場における理解が十分でない場合があります。事例を交えながら学びや働きにおける合理的配慮とは何かを解説します。</p> <p>※当コースは、特別支援教育士〔S.E.N.S〕、特別支援教育士スーパーバイザー〔S.E.N.S-SV〕資格更新のためのポイント(1P)として認定されます。そのため、モーニングセッションでは当コースの開催時間のみ、9:00-12:00(3時間)となります。</p> <p>協力： 「読み困難な子どもへの様々な DAISY 教材提供による合理的配慮」 シナノケンシ 株式会社 http://www.skcj.co.jp/</p> <p>読むことに困難のある子どもの支援として、ハイライトと音声の同期した DAISY（デイジー）が活用されています。DAISY 再生アプリ「いーリーダー」すでに提供されている DAISY 教材を製作することで、読むことに困難のある子どもの実態に応じた合理的配慮に基づく教材の提供を実現します。</p>
コース 2 Room: 555	<p>「あなたが明日から四肢マヒになったら、どのように生活をリデザインしますか？」 奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター 学術支援専門職員） 巖淵 守（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）</p> <p>障害を支援する立場の人たちも自分が支援を受ける立場でそれを考えられる人は多くないようです。このコースを通して、自分が肢体不自由なったらどうするかをイメージし、ニーズから支援を探るアプローチをアリアティをもって考えられるようになって頂ければと思います。</p> <p>協力： 「あるテクが活きる注目の支援機器 2016」 テクノツール 株式会社 http://www.ttools.co.jp/</p> <p>タブレット操作には「アームサポート"MOMO"」、PCのオノスクリーンキーボードには 「ジャイロマウス"Zono"」、スマホにメモる視線ボード「ワイヤレス透明文字盤"みてタッチ"」の ご紹介をいたします。</p>

<p>コース 3 Room: 554B</p>	<p>「医者や薬はどう付き合うべきか？」 三宅 琢（株式会社 Studio Gift Hands 代表取締役／産業医）</p> <p>医師の診断や指示に不安や疑問を感じた時、皆さんはどうするでしょうか？インターネットで調べたり知人の情報を頼ったりしますが、何かすっきりしない事が多いでしょう。産業医であり、かつ、ICTを治療に導入するユニークな講師の話に耳を傾けてみましょう。</p>
<p>コース 4 Room : 104</p>	<p>「子どもに適する教材・環境作りに徹底的にこだわってみる」 井上 賢子（松江市立意東小学校 教諭）</p> <p>出来ない子どもに反復して教えるのは大切ですが、それがあまり効果を上げない場合は子ども達に大きなストレスを与えるだけでなく学習への意欲や自信を失わせることもあります。その時は、教材を工夫したりICTを導入に学習の環境を子どもに合わせることで学習効果が改善される場合があります。様々な教育実践事例を通して学習支援のポイントを学んでもらいます。</p> <p>協力 : 「障害のある児童生徒を対象とした防災＆教育用ツールのご紹介」 パステルハートプロジェクト（女子美術大学） http://www.rainbow-project.net/</p> <p>女子美術大学が（株）キャドセンターと共同開発した、発達障害や知的障害のある児童生徒を対象として、学校や家庭、地域で活用できる防災教育ツールを紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) いざ！にそなえる学習ツール「まるはづクイズメーカー」 (2) 気持ちを安定させるための「パウンドボックス」 (3) コミュニケーションサポートツール「すききらいカメラ」 (4) いざ！というときのための防災＆コミュニケーションツール「チップス」。
<p>コース 5 Room : 501</p>	<p>「ゲーム漬けの子どものリハビリテーション」 田口 純子（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員） 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター 教授）</p> <p>ゲームはなぜこれほどまでに子ども達を引きつけるのでしょうか？彼らを意欲を失ったととらえるか、ゲームに意欲的に取り組んでいるととらえるかによってアプローチは変わってきます。マイクラフトで文化財の再生を目指す若手研究者の取り組みから彼らのリハビリテーションを考えてみます。</p>
<p>コース 6 Room : 101</p>	<p>「ユニークな子どもの学び方 – 異才発掘プロジェクト ROCKET を通して –」 福本 理恵（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員）</p> <p>ユニークな子ども達は学びのスタイルも変わっています。学びの早い子ども達・一つの事にしか興味を持たない子ども達など様々です。彼らを通常学級で抱える事は容易ではありません。異才発掘プロジェクトに参加した子ども達の事例を紹介しながら、彼らとどのように学んでいくべきか考えてみたいと思います。</p>
<p>コース 7 Room : 509</p>	<p>「当事者の語り –ユニークな生き方から学ぶ生き方 –」 当事者の方々 岡 耕平（滋慶医療科学大学院大学 専任講師） 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター 教授）</p> <p>ユニークな人の発言や行動を理解するのは難しいと感じる人もいます。社会ではなかなか受け入れてもらえないという人たちに登壇してもらい、彼らの話を聞きながらコミュニケーションの難しさを感じると同時に、我々の日常の生活やコミュニケーションを見直すヒントになればと思います。</p>

<p>コース 8</p>	<p>「読み書き障害の診断とテクノロジーを用いた支援」 河野 俊寛（金沢星稜大学人間科学部 教授／言語聴覚士） 平林 ルミ（東京大学先端科学技術研究センター 助教）</p>
<p>Room : 510</p>	<p>読み書きの苦手な子どもの支援にテクノロジーが大きな役割を果たします。しかし、どのような子どもに何を適用すれば良いのかに迷う人も多いのではないかと思います。ここでは、読み書き困難な人へのタブレットやスマホの導入の道筋を事例紹介やテクノロジーデモを交えながら解説します。 ※当コースは、特別支援教育士〔S.E.N.S〕、特別支援教育士スーパーバイザー〔S.E.N.S-SV〕資格更新のためのポイント（1P）として認定されます。そのため、アフタヌーンセッションでは当コースの開催時間のみ、13:00-16:00（3時間）となります。</p> <p>協力 : 「すべての子どもたちに読書の楽しみを」 公益財団法人 伊藤忠記念財団 http://www.itc-zaidan.or.jp/</p> <p>マルチメディア DAISY は、数ある電子図書規格の中でも、最も読みに障害のある方への配慮がなされていると言われています。しかし、まだ認知度が低く、必要とする子どもたちの手元に十分に届いてはおりません。本セミナーでは、参加者の皆様にわいわい文庫を実際にご覧頂き、基本的な操作を学ぶ場とします。読みずに困っている子どもたちが、読み通した喜びや自信を身につける可能性がある本文庫を、ぜひご体験ください。</p>
<p>コース 9</p>	<p>「貧困と生活困窮者のライフサポートから学ぶ -社会の現状とこれからの生活-」 奥山 俊博（東京大学先端科学技術研究センター 学術支援専門職員） 近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）</p> <p>生活に困っている人は障害のある人だけではありません。時代の急速な変化の中で、就労環境も変化し、職を失う人も少なくありません。貧富の差が拡大する中で生活困窮者自立支援法が成立しました。様々な事例を紹介しながら、全ての人を包括した福祉のあり方について考えてみましょう。</p>
<p>コース 10</p>	<p>「最新のアルテクが我々の能力を高める社会とは？ -デモを通じて考える未来の学習・生活-」 巖淵 守（東京大学先端科学技術研究センター 准教授）</p> <p>様々なテクノロジーが我々の能力を拡大・増強してきています。障害のある人がテクノロジーでエンハンスされることで障害のない人を越える事例も出てきています。身近にあるテクノロジー（アルテク）でもそれが可能になってきた時には、テクノロジーを得られるか否かが能力を決定するかもしれません。現在のテクノロジーや最先端の研究を紹介しながら未来の学習・生活を想像してみてください。</p>
<p>コース 11</p>	<p>「知的障害や自閉症の人とのシンボルコミュニケーション」 青木 高光（長野県稻荷山養護学校 教諭／ドロップレット・プロジェクト）</p> <p>言語でコミュニケーションが苦手な人とのコミュニケーションにシンボルや写真の活用は有効です。しかし、シンボルや写真を渡してもそれをすぐに使える人は多くありません。どのようにそれらを導入すればいいのか、具体的な事例を示しながら理解を深めてもらいます。</p>
<p>コース 12</p>	<p>「黙って観るコミュニケーション -重度知的障害や重複障害の人の気持ちを理解する方法-」 谷口 公彦・佐野 将大（香川県立高松養護学校 教諭） 武長 龍樹（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員）</p> <p>重度重複障害のある子ども達の気持ちを読みとる事は容易ではありません。そのため周囲の人たちはその気持ちを推測していきます。果たしてこれでいいのでしょうか？ここでは日常行われているコミュニケーションの間違いを分析し、正しく意思を汲み取る方法を事例を交えながら紹介していきます。</p>
<p>コース 13</p>	<p>「意欲を失った勉強嫌いの子どもたちへのアプローチ」 福本 理恵（東京大学先端科学技術研究センター 特任研究員）</p> <p>勉強の苦手な子どもはテスト等で評価される機会が少なく、意欲や自信を失っています。彼らが勉強ができないのではなく、教育法が合っていないからかもしれません。読み書きが苦手でテストの成績が悪くても聞かれば答えられたり、体を動かす活動は理解出来る子どももいます。ここでは教科書を離れて、教科書と同じ事を学ぶことは出来ないかという試みを紹介し、子どもにあった教育法を考えてみます。</p>
<p>コース 14</p>	<p>「親の気持ちを共感的に理解するには？」 赤松 裕美（東京大学先端科学技術研究センター 学術支援専門職員） 中邑 賢龍（東京大学先端科学技術研究センター 教授）</p> <p>子どもを思う親の気持ちは時には感情的になり、周囲との衝突を生みます。講師や支援者はそれを理解した上で、親とコミュニケーションしていく必要があります。ここでは、学校に通う子どもの悩みを抱える母親達の悩みを聞くコーディネーターとして働く講師が事例を交えながら親の理解に着いて語ります。</p>

会場案内





空気の人 Aerial Being Yasuhiro Suzuki